

道徳通信

愛西市立八開中学校
令和4年3月4日
青ブロック職員



「感謝の気持ちについて、考えを深めよう」～道徳「背番号10」を通して考えました～

野球部キャプテンの「僕」は、いらいだちを皆にぶつけるように注意してしまい、皆の心は離れていきつつありました。そんなある日「僕」は骨折し、数か月野球ができなくなってしまいます。翌日から「僕」は、チームの裏方に徹し、皆を励まします。皆はしだいに「僕」を頼りにするようになりました。夏の大会前、復帰したばかりの「僕」は背番号10を監督からもらいます。皆に向かって礼をした僕に大きな拍手が贈られました。挫折を乗り越えてキャプテンとしての役割を果たす生徒の物語を通して、自分と周りの人々がどのような思いで関わっているかを考えました。

●● ●●さん

思いやりや感謝の気持ちをもって自分のできることをやろうと思った。

●● ●●さん

何か人に教える時はまず背中で語ろうと思った。細かいことや誰かに見られていないところでもきちんとやるのが大切だと思った。

●● ●●さん

相手の良いところを見つけるとより良い関係が築けると思った。
常に相手に感謝の気持ちをもつことが大切。

●● ●●さん

自分を振り返ると新しい何かが見つけれられるのかなと思った。諦めずに何事にも全力でやるのが新たな課題が見えてくると思ったので今後もやっていきたい。

●● ●●さん

自分が悩んでいる時に助けてくれる人はたくさんいて、その人たちに感謝することは大切だと思った。自分にできることを考えると、他の人の役に立つのかなと思った。

●● ●●さん

僕は、新チームのキャプテンになった、だけどキャプテンになって僕はみんなの事を上手くまとめられなかった。僕は野球をやめようとした。ここまで来られたのは、チーム、お父さん、監督、応援してくれている人のおかげだと気づいた。

●● ●●さん

深くと頭を下げたところで、みんなが大きな拍手をしてくれたところが立花くん感謝の気持ちを感じた。感謝することは誰も不幸にさせない行動だとわかった。

●● ●●さん

立花は最初喜びから礼をしたと思っていたけれど、みんなと意見を交換していくうちに、監督やチームメイトが自分をベンチに入ることに納得してくれたのが、嬉しくてありがたいから礼をしたのかもしれないと思うようになった。

●● ●●さん

キャプテンが背番号をとって「なんでだろう」と思った人もいると思うけど、キャプテンとしてみんなのことを思ってやってくれているのが素敵だなと思いました。

●● ●●さん

キャプテンだからという理由で選ばれたと思っている人がいるかもしれない。だから、そんな風に疑問に思っている人たちの気持ちに負けないぐらい、自分にできることを探していく。背番号をもらったからには、僕が怪我をしている間練習に一生懸命取り組んでいた人の分まで、ベンチの一番として認めてもらうように頑張る。

